

非接触型嚥下運動計測システムを用いたおいしさ評価法の構築

Evaluation of Emotions by non-contact swallowing measurement

○村 絵美<sup>1</sup>・飛谷 謙介<sup>2</sup>・加藤 邦人<sup>3</sup>・永井 元<sup>1</sup>

(サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社<sup>1</sup>、関西学院大学理工学部<sup>2</sup>、岐阜大学工学部<sup>3</sup>)

嚥下運動は反射性・随意性反応の両方によって支配されており、その運動の定量化はおいしさなどの感性評価に有用であると考えられる。これまでもX線照射や筋電図を用いた嚥下運動の追跡例が報告されているが、より正確な感性測定には摂取シーンに即した条件下での測定が求められる。そこで本研究では、新たに開発した非接触・非侵襲の嚥下運動計測システムを用いて種々の飲料に対するおいしさ、飲みやすさの評価を試みた。その結果、嗜好度の低い飲料では摂取区間・嚥下周期平均の延長が見られ、摂取欲求が高い条件では摂取区間・嚥下周期平均・周期間距離の短縮が認められた。